



# 広島もみじまんじゅうラウンド報告書

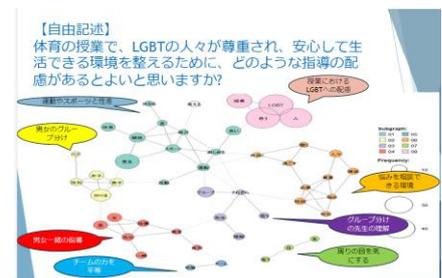
九州体育・保健体育ネットワーク研究会

令和6年2月17日(土)

春のような暖かな陽気のもと、23名の参加者の皆さまとともに、2年ぶりのもみじまんじゅうラウンドの開催となりました。教育の本質に迫る、大変濃い、学びの場となり、改めて子供たちのために、チャレンジし続けること、そして、学び合う、学び続けることの大切さを感じる時間となりました。

## 【第1部:話題提供】

初めに、桐蔭横浜大の佐生さんから、「体育授業における『LGBT』に配慮した指導方法の一考察」と題して、研究成果を報告していただきました。「LGBTの理解度に関しては、男子よりも女子の平均値が高いことが明らかになった」など、一つの一つの報告に対して、参加者にとっては、「なるほど」がいっぱいでした。グループ別の協議では、男女共習が原則になっているものの、体育の中で共生の視点の学習をもっと充実していないといけない、といった意見が出されていました。



続いて、福山市立高島小学校の伊田先生から、「体育で子供を育てる 教師を育てる」と題して、先生の経験談も交えながら、とても熱く語っていただきました。伊田先生の経験に基づく言葉一つ一つは、心にしみる大変重みのあるものでした。「子供の成長の様子を見逃さず、よいところを褒め、そして伸ばす。そのためには、一人一人に関わりきることが大事だ」というお話は、体育授業はもちろんのこと、全ての教育につながるのだと思いました。「教育の不易と流行」ではないですが、これまで大事にしてきたことを守りつつ、新たな教育課題に対応できる柔軟な感性を磨いていくことが必要だと感じるお二人の報告でした。ありがとうございました。

## 【第2部:グループワーク】

### ：「主体的に学習に取り組む態度の学習評価に向けて」

小学校高学年「体づくり運動」を事例に、「共生」に視点を当てて、「主体的に学習に取り組む態度」の指導と評価の具体について協議しました。

本ワークでは、「態度のもととなる知識」のうち、特に「方法知」に焦点化し、まずは、主体的に学習に取り組む態度に関して「どのように学ぶのか」について明らかにする作業を行いました。その後、設定した評価規準に照らし合わせて、どういった子供の姿が想定できるのか、指導したこととどのように個々の力が高まったと考えられるか、見取りの具体を考えました。

小学校は解説の中に、「知識」に関する記載が少ないため、汎用的な知識や学びの高まりの姿を具体化する作業は、正直、難しいです。今回のように、どう指導し評価していくのか、手探りの状況でも知恵を出し合い、考え合う作業を行っていくことが、指導と評価を充実していくことにつながっていくのではないかと感じました。

まとめでは、「主体的・対話的で深い学びを実現する体育科の授業づくり」と題して、安田女子大学の徳永先生からお話をいただきました。大変充実した学びの場となりましたことを感謝いたします。ありがとうございました！



例：体づくり運動（6年）【共生】に焦点を当てて

項目	内容
具体知	体の動きには、体力や性別、障害の有無により違いがあることを認めようとする。
概念知	様々な違いを超えて、みんなが楽しんだり達成感を味わったり、認め合ったりするための工夫があることなどを理解し、取り入れるようにする。
方法知	「体の動き」について「違い」を認め、その違いを「認め合う」ための工夫を「工夫する」こと。具体的には、体力や性別、障害の有無により違いがあることを認めようとする。

#### 想定される具体的な児童の姿（共生）

- ・友達と一生懸命に最後まであきらめない姿
- ・仲間の気づき（頑張る、努力してるところなど、態度面）をタブレットや紙媒体でふりかえりを表現（発表）している姿
- ・運動の行い方について考え仲間の気づきや考え、取組の良さを認めあう姿
- ・自己と周りの成長に気づく姿

(文責：清田)